



大分県と鹿児島県本土から得られたヨウジウオ科イッセンヨウジ

幸大二郎¹・金井聖弥²・中村亮太³・星野和夫^{2,4}・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）
yuki.corythoichthys@gmail.com (corresponding author)
² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
³ 鹿児島大学水産学部（鹿児島市）
⁴ 大分マリンパレス水族館「うみたまご」（大分市）

Received 31 January 2026
Revised 05 February 2026
Accepted 05 February 2026
Published 06 February 2026
DOI 10.34583/ichthy.64.0_20

Daijiro Yuki, Seiya Kanai, Ryota Nakamura, Kazuo Hoshino and Hiroyuki Moto-mura. 2026. First records of *Coelonotus leiaspis* (Syngnathidae) from Oita Prefecture and Kagoshima mainland, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 64: 20–23.

Abstract

Seven specimens (94.8–117.3 mm standard length) of *Coelonotus leiaspis* (Bleeker, 1854) (Syngnathidae), distributed in Madagascar and the western Pacific Ocean, were collected from Oita Prefecture and Kagoshima mainland, Japan. In Kyushu, *C. leiaspis* has previously been recorded only from Nagasaki and Miyazaki prefectures. Thus, the presently reported specimens, described here in detail, represent the first records of *C. leiaspis* from Oita Prefecture and Kagoshima mainland.

ヨウジウオ科のイッセンヨウジ *Coelonotus leiaspis* (Bleeker, 1854) は、マダガスカルと西太平洋の河川汽水域から淡水域に生息し、躯幹部と尾部の上隆起線が連続しない、躯幹部と尾部の下隆起線が連続せず不明瞭、主鰓蓋骨の縦走隆起線が不明瞭、躯幹部輪数が16–18（通常17）、尾輪数が30–34、躯幹部に黒色小斑点をもたないことにより特徴づけられる（Dawson, 1984, 1985；瀬能, 2013）。

2014年から2025年にかけて大分県と鹿児島県本土から計7個体のイッセンヨウジが採集された。これまで本種の九州沿岸域における記録は、長崎県と宮崎県から知られており（長崎県, 2011, 2022; Iwatsuki et al., 2017；本研究）、本研究で確認された上記の7個体は、それぞれ大分県と鹿児島県本土におけるイッセンヨウジの初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測は Dawson (1984) と井藤ほか (2023) にしたがった。標準体長は体長または SL、頭長は HL、および吻長は SnL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。イッセンヨウジに対応する学名は、本村 (2026) にしたがった。標本の作成、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) にしたがった。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に保管されており、生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Coelonotus leiaspis (Bleeker, 1854)

イッセンヨウジ

(Fig. 1; Table 1)

標本 7 個体（体長 94.8–117.3 mm）：KAUM-I. 217873, 体長 95.0 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町秋目川, 31°21'32"N, 130°12'E, 水深 0.5 m, 2025 年 6 月 28 日, 徒手, 金井聖弥；KAUM-I. 220771, 体長 100.2 mm, 大分県佐伯市大字上岡番匠川, 32°57'13"N, 131°51'35"E, 2015 年 8 月 14 日, 手網, 宮島尚貴；KAUM-I. 221282, 体長 114.2 mm, KAUM-I. 221283, 体長 114.9 mm, KAUM-I. 221284, 体長 117.3 mm, 鹿児島県肝属郡南大隅町間泊川河口, 31°02'14"N, 130°42'46"E, 水深 0.2 m, 2025 年 10 月 26 日, 手網, 中村亮太；KAUM-I. 222937, 体長 106.1 mm, 大分県佐伯市蒲江大字森崎浦森崎川, 32°48'29"N, 131°53'43"E, 2023 年 12 月 26 日, 手網, 宮島尚貴；KAUM-I. 300269, 体長 94.8 mm, 大分県白杵市大字野田白杵川本流, 33°06'N, 131°46'E, 2014 年 9 月 24 日, 手網, 廣田空澄・廣田陸翔。

記載 計数・計測値を Table 1 に示した。体は細長く、体輪（連続した環状甲板）で覆われる。躯幹部と尾部の上隆起線は不連続。躯幹部と尾部の下隆起線は不連続。躯幹部中央隆起線と尾部の下隆起線は連続する。躯幹部と尾部の上隆起線は背鰭下の体輪上で隆起せず直線状。躯幹部と



Fig. 1. Living individual (A: KAUM-I. 220771, 100.2 mm SL, Banjo River, Saiki, Oita, Japan), fresh specimens (B, C: KAUM-I. 217873, 95.0 mm SL, Akime River, Bonotsu, Minami-satsuma, Kagoshima, Japan; D: KAUM-I. 300269, 94.8 mm SL, Usuki River, Usuki, Oita, Japan), and preserved specimen (E: KAUM-I. 406631, 135.8 mm SL, Kushima, Miyazaki, Japan) of *Coelonotus leiaspis*.

尾部の上隆起線、および躯幹部中央隆起線はそれぞれの体輪同士の境界が凹むことによって僅かに張り出し、その縁は円滑。躯幹部と尾部の下隆起線は不明瞭。躯幹部腹面の中央隆起線は低く、不明瞭。躯幹部横断面の腹面が鈍くV字状に突出する。尾部の上隆起線が背側後方に、下隆起線が腹側後方に張り出さない。口は小さく、歯を欠く。吻は細長く伸長する。吻背面の中央隆起線は低く、上顎後方から眼窩前端の上方にあり、骨質の隆起や棘を欠く。吻背面の中央隆起線は眼上隆起線と連続しない。吻側面の隆起線は低く、眼窩前下方3分の1に達する。頭部背面の中央隆起線は低い。鼻孔は2対。両眼間隔は僅かに凹む。主鰓蓋骨の縦走隆起線は低く不明瞭で、細く不明瞭な隆起線が多数分岐する。胸鰭基底前方に1本の隆起線がある。中間板に隆起線がない。第1躯幹輪は第2躯幹輪より長い。躯幹部は尾部より太く短い。尾部は末端に向かうほど細くなる。背鰭起部は第14躯幹輪にある。背鰭基底部は盛り上がりず、直線状。胸鰭後縁は丸い。臀鰭はきわめて小さい。腹鰭を欠く。尾鰭は楕円形で各鰭条間の縁辺は緩やかに切れ込む。すべての鰭は棘をもたず、軟条と鰭膜からなる。体に皮弁がない。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体の地色は茶色。眼窩後方から鰓蓋上方、胸鰭基底上方、躯幹部中央隆起線、および第8尾輪前方の尾部上隆起線に沿って1本の濃い茶色の縦帯がある。吻は濃い茶色で、先端と腹側の後方が白色を帯びる。眼窩前方から鰓蓋下方、および体側前下方3

分の2は白く（生時は茶色、Fig. 1A）、茶色の斑紋が散在する。背鰭、胸鰭、および臀鰭は透明。尾鰭は赤みを帯びた茶色で、縁辺が白色（生時は茶色、Fig. 1A）に縁取られる。

分布 本種はマダガスカルと西太平洋に分布し、日本国内からは、茨城県、神奈川県、静岡県、和歌山県、徳島県、高知県、長崎県、日向灘、種子島、屋久島、および琉球列島から記録されていた (Dawson, 1984, 1985; 長崎県, 2011, 2022; 瀬能, 2013; 吉郷, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 松沼, 2019; 赤池ほか, 2021; 外山ほか, 2021; 萩原, 2022; 金子ほか, 2022; 山崎ほか, 2022; 井藤ほか, 2023; Motomura, 2023; 岡村ほか, 2023; 山崎・外山, 2023; Yuki et al., 2025). Yuki et al. (2025) は本種1標本 (ZUMT 13493) を長崎県紀ノ川産として報告したが、和歌山県紀ノ川の誤りである。本研究により大分県と鹿児島県本土からも本種が記録された。

備考 本研究で記載した標本は躯幹部と尾部の上隆起線が連続しない、吻背面の中央隆起線が低い、鰓蓋の縦走隆起線が不明瞭、胸鰭基底前方に隆起がある、背鰭起部が躯幹部にある、背鰭基底が顕著に隆起しない、中間板に隆起線がない、頭部と体に皮弁がない、躯幹輪数が17–18、尾輪数が31–33、および躯幹部に黒色小斑点をもたないことから、Dawson (1984, 1985) や瀬能 (2013) のイッセンヨウジ *Coelonotus leiaspis* [あるいは *Microphis* (*Coelonotus*) *leiaspis* として] の特徴に一致したため、本種と同定された。

本種の分布域は「分布」の項で示したとおりであり、日本国内では茨城県から琉球列島にかけて分布している。Iwatsuki et al. (2017) は日向灘（大分県、宮崎県、および鹿児島県の太平洋沿岸域）から本種（*Microphis leiaspis* として）を標本に基づき記録したが、根拠となる標本番号は示されていない。現在、宮崎大学農学部水産科学講座(MUFS: Division of Fisheries Sciences, Miyazaki University) に收藏されていたすべての魚類標本は、鹿児島大学総合研究博物館に移管されている。本研究では、これらの移管標本を調査した結果、宮崎県串間市から採集されたイッセンヨウジ 1 標本 [MUFS 47464 (KAUM-I. 406631 に再登録)、体長 135.8 mm; Table 1] が確認された。MUFS 標本台帳上においてイッセンヨウジは、この 1 標本しか存在していない。さらに、その他のヨウジウオ科魚類標本の再同定をした結果、イッセンヨウジは含まれていなかったため、Iwatsuki et al. (2017) の記録の根拠は宮崎県串間産の 1 標本であると判断した。

鹿児島県坊津町産の標本は、秋目川下流の水量が少なく流れの緩やかな箇所において、夜間に多数のテングヨウジ *Microphis brachyurus* (Bleeker, 1854) に混じっているところを第 2 著者が目視で確認し、テングヨウジ (KAUM-I.

217874, 体長 78.4 mm) と共に徒手で採集された。鹿児島県南大隅町産の標本は、間泊川下流の流れが緩やかな淵において、夜間に多数のテングヨウジとともに水面付近を遊泳しているところを第 3 著者が目視で確認し、徒手によって採集された。同所ではテングヨウジ (KAUM-I. 221280, 体長 146.8 mm) のほかにカワヨウジ *Hippichthys spicifer* (Rüppell, 1838) (KAUM-I. 221281, 体長 127.7 mm) が採集された。

謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアのみなさまには、標本の作成および登録作業においてご協力いただいた。Ichthy 編集委員の吉田朋弘氏と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087)、JSPS 研究拠点形成事業－B アジア・アフリカ学術基盤形成型(CRE

Table 1. Counts and measurements of *Coelonotus leiaspis* from Kyushu, Japan.

	Kagoshima mainland, Kagoshima Pref.				Oita Pref.			Miyazaki Pref.
	KAUM-I. 217873	KAUM-I. 221282	KAUM-I. 221283	KAUM-I. 221284	KAUM-I. 220771	KAUM-I. 222937	KAUM-I. 300269	KAUM-I. 406631
Standard length (SL; mm)	95.0	114.2	114.9	117.3	100.2	106.1	94.8	135.8
Counts								
Dorsal-fin rays	60	53	56	53	59	54	58	57
Anal-fin rays	4	4	4	4	4	4	4	4
Pectoral-fin rays	19	17	17	18–19	19	18	17	18
Caudal-fin rays	9	9	9	9	9	9	9	9
Trunk rings	17	17	17	17	17	17	18	17
Tail rings	33	31	31	30	31	32	32	32
Subdorsal rings	12	12.5	12.25	11.5	12	11.75	12.5	12.5
Measurements (% of SL)								
Head length (HL)	11.6	10.0	10.3	10.1	11.0	10.3	10.7	9.9
Trunk length	29.8	31.2	31.2	32.0	30.6	30.5	31.2	31.5
Caudal length	58.4	58.8	57.9	57.2	57.7	58.2	56.9	58.5
Predorsal length	34.9	36.0	36.3	35.6	34.3	34.6	34.9	34.2
Preanal length	39.8	41.4	40.4	42.2	41.6	39.5	41.5	41.4
Body depth	2.7	2.3	2.4	2.6	2.2	2.2	2.2	2.8
Anal ring depth	2.7	2.3	2.4	2.5	2.2	1.9	2.1	2.7
Body width	2.7	2.5	2.7	2.8	2.3	2.2	2.2	2.8
Dorsal-fin height	3.2	2.8	2.9	3.2	3.1	3.0	2.6	2.7
Dorsal-fin base length	20.8	19.6	22.0	20.2	21.4	19.8	21.6	22.0
Pectoral-fin length	2.6	2.2	2.3	2.4	2.4	2.1	2.4	2.2
Pectoral-fin base length	2.1	1.6	1.9	1.9	1.7	1.6	1.7	1.8
Caudal-fin length	4.5	4.0	3.8	4.0	4.4	5.0	5.3	damaged
Measurements (% of HL)								
Snout length (SnL)	40.6	40.3	41.3	40.3	39.3	41.6	41.3	41.4
Orbital diameter	19.0	19.3	19.4	19.9	19.9	19.4	19.8	18.7
Interorbital width	13.5	12.5	12.9	12.4	11.9	13.9	14.2	12.3
Measurements (% of SnL)								
Snout depth	30.3	27.8	25.9	27.5	24.1	27.8	26.4	26.2

PSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業(奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル)の援助を受けた。

引用文献

- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖縄永良部島初記録の魚類 66 種, およびサザンブラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35.
- Dawson, C. E. 1984. Revision of the genus *Microphis* Kaup (Pisces, Syngnathidae). *Bulletin of Marine Science*, 35: 117–181.
- Dawson, C. E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). The Gulf Coast Research Laboratory, Ocean Springs. vi + 230 pp.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集 奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博資料集, 46: 1–127, 1–4 pls.
- 井藤大樹・庄野耕生・瀬能 宏. 2023. 徳島県から得られた分布北限記録となるヨウジウオ科の稀種ホシイッセンヨウジ. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.22-029 (16 Jan. 2023), 70: 119–124 (25 Apr. 2023).
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.
- 金子誠也・山崎和哉・外山太一郎・大森健策・中島政明・加納光樹. 2022. 茨城県久慈川感潮域の魚類相. 茨城県自然博物館研究報告, 25: 27–40.
- 松沼瑞樹. 2019. ヨウジウオ科, pp. 56–60. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 202 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作成と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- 本村浩之. 2026. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 36. [URL](#) (26 January 2026)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183.
- 長崎県. 2011. 長崎県レッドリスト (2011) 中間見直し. [URL](#) (26 Jan. 2026)
- 長崎県. 2022. 長崎県レッドリスト 2022. [URL](#) (26 Jan. 2026)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- 岡村恭平・山上竜生・井上裕太・野村彩恵・遠藤広光. 2023. 高知県から得られたハゼ科 7 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 20–27.
- 瀬能 宏. 2013. ヨウジウオ科, pp. 615–635, 1909–1913. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 外山太一郎・山崎和哉・大森健策・金子誠也・中島政明・加納光樹. 2021. 茨城県久慈川とその周辺河川で採集された南方系魚類. 茨城県自然博物館研究報告, 24: 77–84.
- 山崎和哉・外山太一郎. 2023. 茨城県水産試験場内水面支場に保管されていたヨウジウオ科魚類 2 種の標本. 茨城県水産試験場報告, 48: 18–20.
- 山崎和哉・外山太一郎・大森健策・金子誠也・諸澤崇裕・稲葉 修・増子勝男・萩原富司・荒山和則・加納光樹. 2022. 証拠標本・写真に基づく茨城県産淡水・汽水魚類目録の再検討. 茨城県自然博物館研究報告, 25: 79–94.
- 吉郷秀範. 2014. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のトゲウオ目魚類 (硬骨魚類). 比和科学博物館研究報告, 55: 279–326, 1–4 pls.
- Yuki, D., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima. 2025. A list of syngnathid (Teleostei) specimens deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. *The University Museum, the University of Tokyo, Material Reports*, 139: 31–45.